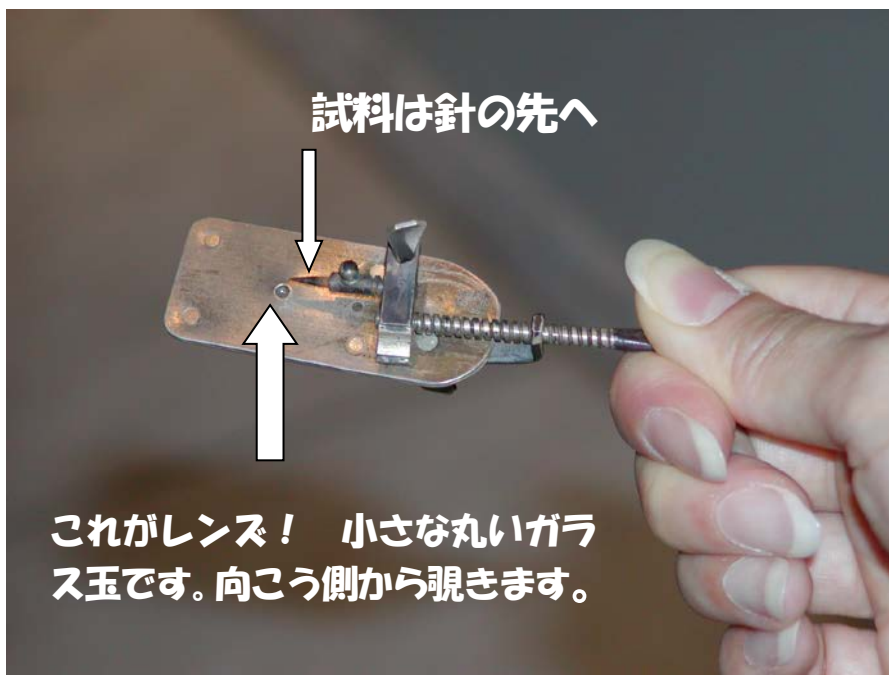


大阪市立科学館資料紹介
レーウェンフックの顕微鏡

今から 300 年ほど前、顕微鏡が発明されたばかりの頃のレプリカ顕微鏡を 4 階に展示しています。ロンドンの骨董店に転がっていたのを斎藤吉彦課長が見つけてきました。

顕微鏡の開発者と言えばニュートンのライバルであったロバート・フック (1635-1703) が有名です。フックの描いた蚤 (のみ) のスケッチをご覧になった方もおられるでしょう。フックは接眼レンズと対物レンズを備えた現代式の光学顕微鏡を作りましたが、ここにある顕微鏡はずっと簡単です。

オランダの法廷の収入役をしていたアントン・ファン・レーウェンフック (1632-1723) は 1674 年頃、高性能虫眼鏡とも言うべき 1 枚レンズの簡易な顕微鏡を作り、ヒトの精子、赤血球、バクテリアなどを次々に発見し、ついに生物の自然発生説を否定するという快挙を成し遂げました。直径数 mm のガラス玉ですから、皆さんの簡単に自作できます。これで倍率は 200~300 倍！生物学に変革をもたらしたレーウェンフックの顕微鏡でした。



(加藤 賢一)